


# 【Universal MaaS～誰もが移動をあきらめない世界へ～】

移動躊躇層(※)が抱えている課題を、Universal MaaSのコンセプトに従って利用者と事業者双方の視点から解決し、行動変容を促すことにより新たな移動需要を喚起する。2020年度の実証実験結果を踏まえ、順次社会実装を進める。  
 ※何らかの理由により移動を躊躇している方々。2021年度は下肢障がいに加え視覚に障がいのある方々も対象に実施。

協議会の 構成員	【構成員】 全日本空輸（幹事）、京浜急行電鉄、横須賀市、横浜国立大学 【実証実験パートナー】 東日本旅客鉄道、東京モノレール、エムケイ、損害保険ジャパン、プライムアシスタンス、Ashirase、ANAウイングフェローズ・ヴィ王子 他、右記URLの数十社を予定 <a href="https://universal-maas.org/partner">https://universal-maas.org/partner</a>	
	地域課題	介助やサポートを必要としている利用者への対応が、自治体・地域や事業者ごとに大きく異なっており、また各交通事業者や施設管理者との連携方法が定まっていないため、移動躊躇層における自律的なdoor-to-door移動が不便（全国的な課題ではあるが、まずは特定の利用者、自治体・地域、事業者を対象を絞って課題解決を行う）
事業概要	期間	2022年2月3日～2月28日
	エリア	①山手線周辺⇄羽田⇄伊丹⇄京都/大阪/神戸 ②横須賀市内⇄羽田空港T1/T2駅
	MaaSシステム	既存の経路検索サービスに以下機能を実装 ①オンライン一括サポート手配 ②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ
	交通サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通領域だけでなく、地域内の周遊や交通結節点の移動も含めたdoor to doorナビの提供</li> <li>自分に合ったルートを選択・保存し、旅程管理や介助手配状況の確認を可能とする情報・機能の提供</li> <li>介助を必要とする利用者が支援内容を事業者へ依頼し、事業者が回答するコミュニケーション機能の提供</li> <li>バリアフリー/ユニバーサル関連の移動手段との連携</li> </ul>
	交通以外のサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリー/ユニバーサルデザインに関連した移動支援サービスとの連携</li> <li>バリアフリー関連アプリとのAPI連携（地図・ナビ機能）</li> <li>自律移動支援サービスや支援機能との連携</li> <li>その他サービス、機能との連携（以下参照） <a href="https://universal-maas.org/partner">https://universal-maas.org/partner</a></li> </ul>
検証内容	以下URL（プレスリリース）内の<検証内容>参照 ①一括サポート手配 <a href="https://www.anahd.co.jp/group/pr/202201/20220125-2.html">https://www.anahd.co.jp/group/pr/202201/20220125-2.html</a> ②バリアフリー地図/ナビ <a href="https://www.anahd.co.jp/group/pr/202202/20220221-2.html">https://www.anahd.co.jp/group/pr/202202/20220221-2.html</a>	

## 取組イメージ




～誰もが移動をあきらめない世界へ～

あるべき姿

①公共交通移動における一括サポート手配の実現


【現在】各事業者へ個別に都度、連絡・確認      【未来】各事業者に一括手配



②徒歩シーンにおける自律的移動の実現

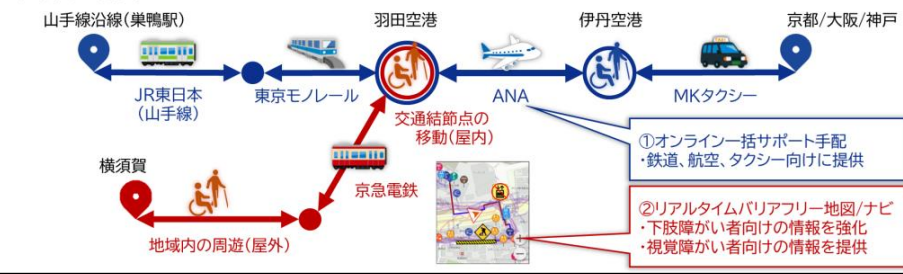
【現在】自分に合った移動手段・情報が不足      【未来】移動手段・情報の選択肢が充足

※地域内の周遊や交通結節点の移動における課題を解決（以下O印のエリア）



出発地 (短距離) 駅 中距離 駅 (空港) 長距離 (空港) 中距離 (目的地)

今年度の範囲



①オンライン一括サポート手配  
・鉄道、航空、タクシー向けに提供

②リアルタイムバリアフリー地図/ナビ  
・下肢障がい者向けの情報を強化  
・視覚障がい者向けの情報を提供

## 検証結果

- ①一括サポート手配：各事業者に一括手配できるようになったことで、お客さまの事前手続きの負荷が減り、また移動を躊躇する心理的障壁も下がった。一方、事業者側の既存業務オペレーションとの連動性に関する課題が大小抽出できたため、解決に向けて継続検証を行う必要あり。
- ②自律的移動の実現（バリアフリー地図/ナビ）
  - ・下肢障がい者向けの情報強化：有益性は確認できたが、表示方法に改善の余地あり。情報更新作業の詳細化と併せて検討することで、社会実装や他地域への横展開の可能性が広がる。
  - ・視覚障がい者向けの情報提供：利用者観点での有用性確認ができた。抽出した課題（システム・サービス設計）の解決に向け継続検証が必要。

## 今後の方向性

- ①②共に、利用者からの評価や期待が予想以上に高かったため、2022年度以降の段階的な社会実装を目指す。
- 今年度の実証実験にて抽出できた課題の解決策検討、優先度づけを行い、社会実装に向けて実証実験やサービス・体制強化を図りたい。